

2025 年度 入学試験問題 博士後期課程
文学研究科 歴史学専攻 [専門：日本史学系]

(注意事項)

- ① 問題は3種類（日本史・東洋史・西洋史）あります。
1種類を選択し、選択した問題の種類を解答用紙に必ず示しなさい。
- ② 解答は、横書き。
- ③ 解答用紙に、志望専攻・受験番号*氏名を記入すること。
- ④ 試験終了後、問題用紙は持ち帰ること。

あなたのこれまでの研究が研究史のうえでどのような意義を持っているのかを明確にしなが、総括しなさい。さらに今後の展望や研究計画について 1000 字程度で述べなさい。

2025年度 入学試験問題 博士後期課程
文学研究科 歴史学専攻 [専門：東洋史学系]

(注意事項)

- ① 問題は3種類(日本史・東洋史・西洋史)あります。
1種類を選択し、選択した問題の種類を解答用紙に必ず示しなさい。
- ② 解答は、横書き。
- ③ 解答用紙に、志望専攻・受験番号・氏名を記入すること。
- ④ 解答用紙には、設問番号を記入し、解答すること。
- ⑤ 試験終了後、問題用紙は持ち帰ること。

I. 次の[A][B][C] 3題より1題を選択して解答しなさい。

[A] 次の文章は司馬光『資治通鑑』の一節である。現代日本語に翻訳しなさい。

臣光曰、王霸無異道。昔三代之隆、礼楽・征伐自天子出、則謂之王。天子微弱不能治諸侯、諸侯有能率其與国同討不庭以尊王室者、則謂之霸。其所以行之也、皆本仁祖義、任賢使能、賞善罰惡、禁暴誅乱。顧名位有尊卑、徳沢有深淺、功業有鉅細、政令有広狭耳、非若白黒・甘苦之相反也。漢之所以不能復三代之治者、由人主之不為、非先王之道不可復行於後世也。夫儒有君子、有小人。彼俗儒者、誠不足与為治也、独不可求真儒而用之乎。稷・契・皋陶・伯益・伊尹・周公・孔子、皆大儒也、使漢得而用之、功烈豈若是而止邪。孝宣謂太子儒而不立、闇於治体、必乱我家、則可矣。乃曰王道不可行、儒者不可用、豈不過甚矣哉。殆非所以訓示子孫、垂法将来者也。

[B] 次の文章は葛兆光『宅茲中国——重建有关「中国」的历史论述』の一節である。現代日本語に翻訳しなさい。

万历年間、也就是利瑪竇來到中國的時候、不僅是《三才圖會》還在沿用過去的想象、于慎行(1545-1608)所撰《穀山筆塵》卷一八中、也還在沿用舊時的說法、把中國放在中央、他對四裔有这样的描述：“東方曰夷者、東方人好生、萬物抵觸地而生。夷者、抵也。其類有九。南方曰蠻者、君臣同川而浴、極為簡慢。蠻者、慢也。其類有八。西方曰戎者、斬伐殺生、不得其中。戎者、凶也。其類有六。北方曰狄者、叔嫂同穴無別。狄者、僻也、其行邪僻。其類有五。此《風俗通》所著四夷名也。”不過、自從利瑪竇來華之後、特別是關於世界的地圖被繪制出來之後、這種關於天下的想象開始發生根本的變化、看到利瑪竇世界地圖後、李之藻承認這種關於新的世界的知識對於他的震撼、“地如此其大也、而在天中一粟耳、吾州吾鄉、又一粟中之毫末、吾更藐焉中處、而爭名竟利于蠻觸之角也軟哉……”、於是、他批評固守舊說的人是自鑿其耳目思想、“孰知耳目思想之外、有如此殊方異俗、地靈物產、真實不虛者、此見人識有限而造物者之無盡藏也”。

[C] 次の文章を現代日本語に翻訳しなさい。

引用部分は削除しています。

引用部分は削除しています。

出典：이현진 『조선과 대한대국 의례의 경계』 (신구문화사, 2022年) 75-77頁

II. 次の [A] [B] [C] 3題より1題を選択して解答しなさい。

- [A] 中国史における周辺民族との関係について、特定時代の具体例を挙げて論じなさい。
- [B] 中国を中心とする海洋交易について、特定時代の具体例を挙げて論じなさい。
- [C] 朝鮮史における言語と文字の問題について、特定時代の具体例を挙げて論じなさい。

III. 次の項目より2題を選択して歴史的な説明を加えなさい。

- (a) 白虎観会議について
- (b) 王安石の新法について
- (c) 三藩の乱について
- (d) 戊戌変法について
- (e) 備辺司について
- (f) 新幹会について

2025年度 入学試験問題 博士後期課程
文学研究科 歴史学専攻 [専門：西洋史学系]

(注意事項)

- ① 問題は3種類(日本史・東洋史・西洋史)あります。
1種類を選択し、選択した問題の種類を解答用紙に必ず示しなさい。
- ② 解答は、横書き。
- ③ 解答用紙に、志望専攻・受験番号・氏名を記入すること。
- ④ 解答用紙には、設問番号を記入し、解答すること。
- ⑤ 試験終了後、問題用紙は持ち帰ること。

- I. 次の英文は2021年刊行の雑誌 *The Journal of American History* (vol. 108, no. 3) に掲載された、B. C. Tomek 氏による K. Gradert 氏の著書 *Puritan Spirits in the Abolitionist Imagination* (Chicago, 2020) の書評である。この文章を読んで、段落ごとの要旨がわかるように、内容を日本語でまとめなさい。

引用部分は削除しています。

引用部分は削除しています。

47

- II. あなたの修士論文もしくは既発表論文の内容について、現在の研究動向に関連付けながら、その独自性（特色）を具体的に述べなさい。